

なかしまやしゅぞうじょう

# 中島屋酒造場

山口  
周南市

歴史・風土について

酒造りへの想い

蔵元からのメッセージ

中島屋酒造場は山口県周南市の新南陽

地区にある、1823年創業の歴史ある

酒蔵です。約200年間にわたって時代

の流行に流されないこだわりのある酒

造りを続けており、地域に愛されてきま

した。山口県の瀬戸内海側中央部に位置

する周南市（JRは徳山駅）は、現在石油

コンビナートとして栄えています。

幣蔵は、永源山の麓を流れる神代川と富

田川の合流地点・富田土井に在ります。

文政6年（

1823年）4代

目国五郎を始祖

として、以後11

代目の今日まで、

酒造り一筋に営

んでいます。



中島屋酒造場は1823年創業、200年間酒造りを行ってまいりました。長い歴史の中、変わらずに残っているもの、時代とともに変化したこと。そのすべてを受け継いだ結果として現在の蔵があります。「一麴（いちこうじ）、二酏（にもと）、三造り（さんつくり）」という言葉。

これは、酒造工程の大切さを順に表した格言である。

酒造りにおいて最も重要なのが「麴造り」、次に「酒母

造り（酏・もと）」、そして「醪（もろみ）」を仕込む「造り」

といわれる。日本酒づくりの一つ一つの工程への取り組み

み方と、観察し変化に気づくこと。飲み手の気持ちを

想像し、何度も何度も試行錯誤すること、うちの酒蔵らしい味

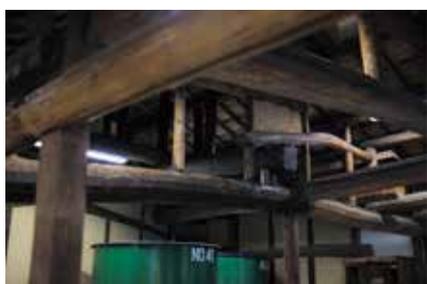
ができあがります。

お酒を造ることにとことんこだわって、記憶に残るお酒を作

ていきたい。時代が変わっても、飲み手の嗜好が変わ

っても、ずっと飲んでもらえるような酒造りを行

つていきたいと思っています。



酒名「寿」は、古くは「ことほぎ」といわれ長命・寿命を願い、祝い事やその儀式に使われていました。地元ではラベルデザインより、鶴・亀・寿（ツル・カメ・コトブキ）と称されて愛飲家の方々に長い間御

贖員にして頂いています。

また近年では、屋号「中島屋」を酒名とした

拘りの酒や、今や希少となった、江戸時代か

ら伝承される正統的な醸造法である「生酏造

り」で醸した酒名「カネナカ」を発売し、注目を

を集めています。

中島屋酒造場が何より大切にしている事は、醸造

酒としての味わいです。それには伝統を守り

、熟練を極めた手造りの技と、最新の化学的

知識の融合があつて、可能です。

幣蔵は、「酒中在心」を社訓とし、こつこつと二

心に醸し量産では出せないうまさを作り造

り続けることで、皆様方に認められる「醸し人」でありたいと願っています。

